平成３０年６月１９日
教育課程部会
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ
資料３

教育課程部会
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ
第5回　意見・所感等

平成30年６月19日
人材育成コンサルタント/株式会社キャリアン
河野真理子（こうのまりこ）

本日お話しすること

はじめに：民間企業向け人材育成※に携わる立場から
あるいは一般・国民の視点から

１．社会背景から

２．学習評価に関する論点例（案）への所感

３．今後に向けて

※人的資源管理 ＝ Human Resource Management
※人材育成・人材開発 ＝ Human Resource Development
※Diversity Management　など

1. 社会背景から

背景の認識

- なぜ今、教育のあり方が変わろうとしているのか、社会の変化・危機感を、教育に関わるすべての人が、常に（肌感覚で）意識することが重要ではないか。

- それを踏まえ、これから育もうとする資質・能力の評価のあり方を考えると、過去の積み重ねに捉われすぎることなく、ラディカルな視点を持つことも重要性ではないか。

1. 社会背景から

参考

○ これからの時代に我が国で学ぶ子供たちは、明治以来の近代教育が支えてきた社会とは質的に異なる社会で生活をし、仕事をしていくことになる。国際的にはグローバル化・多極化の進展、新興国・地域の勃興、産業構造や就業構造の転換、国内では生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、地方創生への対応等、新たな時代に向けて国内外に大きな社会変動が起こっているためである。

○ このような大きな社会変動の中では、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくか、誰も予見できない。確実に言えるのは、先行きの不透明な時代であるからこそ、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力が重要になるということである。また、知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力が重要になるということである。

○ こうした資質や能力は、先進諸国に追いつくという明確な目標の下で、知識・技能を受動的に習得する能力が重視されたこれまでの時代の教育では、十分に育成することはできない。次代を担う若い世代はもちろん、社会人を含め、これからの時代を生きる全ての人が、こうした資質・能力を育むことができるよう、抜本的な教育改革を進める必要がある。（高大接続システム会議 最終報告書 平成28年3月）

1. 社会背景から

現状の認識

- 社会と同様、児童生徒も多様化・複雑化してきているため個別対応が求められるが、それには工数(時間）がかかる。しかし、若い教員は核家族化の中で子育てをし、中堅も親の介護への不安を抱えるなど、時間に追われる人も多い。

- このような状況からも、「時間」に対する意識を見直す必要があり、働き方改革とともに、評価等についてもプロセスイノベーションの考え方が必要ではないか。

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

（観点別児童生徒の評価について）

〇今回の改訂では、「知識」は個別の事実的な知識のみではなく、それらが相互に関連付けられ、社会の中で生きて働く知識を含むと整理されており、このような知識の概念的な理解をどのように評価するか。

〇「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」をどのような方法で評価するか。

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、個々のよい点や可能性、変化や進歩の状況について（個人内評価）伝えられるメッセージ性の強いものであってほしく、モティベーションにつながる形を期待する。
  よって、評定につながるのはなじまないのではないか。

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

続(観点別児童生徒の評価について)

- 「思考力・判断力・表現力」は、一教科の中でとあれば、その教科の特性をもとにペーパーテスト等の開発も可能なのかと思うが、本来社会で求められる「思考力・判断力・表現力」とは、その範囲に留まるものではないので、他の方法も必要だと思う。※
- 各教科の中だけでなく、全教科を通して、習得した知識等を活かす場を設定し、学んだことを活かす楽しさ面白さを知ることから、次のステージへの意欲を育むことも大切ではないか。★

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

（多面的･多角的な学習評価について）

○　中教審答申において指摘されているペーパーテストの結果にとどまらない多面的･多角的な評価をどのように推進するか。

- ※論述やレポート、発表、グループディスカション、作品の制作等の多様な活動をする中から評価ができるのではないか。
- 外部の試験、検定、資格なども活用できるのではないか。
- 高校では、（授業以外の）運動・文化部活動、各種大会、生徒会活動、ボランティア活動、就業体験などからも資質・能力が培われるため、それらを活用し、多面的な評価を行うことができるのではないか。

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

続(多面的・多角的な学習評価について)

- 生徒一人一人のよい点や可能性に着目する個人内評価を、将来の人生設計につなげることを考え、充実させたものにできないか。

○ 多様な資質・能力の全てを、目標に準拠した各教科等の観点別学習状況の中では表すことができない。また、高等学校において学ぶ生徒一人一人の進路に応じた多様な可能性を伸ばしていくという視点からは、各学校においては、教科学習にとどまらない多様な学習活動における学習の成果を的確に見取り、生徒一人一人に対応した指導の改善につなげていく取組が行われるべきである。
○ こうしたことを踏まえ、評定や観点別学習状況の評価といった目標に準拠した評価だけでなく、生徒一人一人のよい点や可能性に着目する個人内評価についても充実を図る必要がある。（高大接続システム改革会議 最終報告書 平成28年3月）

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

（効果的･効率的な学習評価の在り方について）
○　教員にとって過度な負担とならないような手立てをどのように講じるか。

- 評価をシステムと意識し、そのプロセスを見える化して共有することも大切ではないか。

- ＩＴの活用により、可能な限り連動制を重視し、効率をはかるとよい。（指導要録と通信表など）

- 一人で評価するという発想を変えることはできないか。

2. 学習評価に関する論点例(案)への所感

（その他）

○　言語能力や情報活用能力など、今次改訂で教科等横断的な視点で育成を目指すこととした学習の基盤となる資質・能力をどのように評価するか。

- 重要性と必要性を感じる。

★例えば、学年毎に一人一本テーマを決め、1年かけてレポートを書き、最終段階でプレゼンテーションをする。その際、各教科の教師、生徒、保護者や地域の人たちもオブザーブ参加し、部分的に参加者のコメントや投票を評価に取り入れる等オープンな評価の仕組みがあってもよいと思う。

- 学校の示す教育目標や教育理念と照らし合せることを入れるのもよいのではないか。

3. 今後に向けて

検討しておきたいこと

- 大々的な広報：国民的議論を深め、日本全体を巻き込んだ教育改革風土の醸成
  （先が読めない時代における教育改革の意味、評価の難しさについてもオープンに語りかけ、社会で共有することが重要ではないか。）

- キャリアパスポート（仮称）の活用

- 民間人材の更なる活用

3. 今後に向けて

検討しておきたいこと

- 通知表、指導要録などのあり方の検討
- 通知表の重みの良し悪し
- 定期的評価者訓練の実施（一人複数回）
  （評価者のアンコンシャスバイアスにより判断の歪みから誤差が生じるため、その誤差を最小限にする努力が必要。）

3. 今後に向けて

「評価」への期待

- 一人ひとりの成長を促す「評価」の仕組みづくりへ

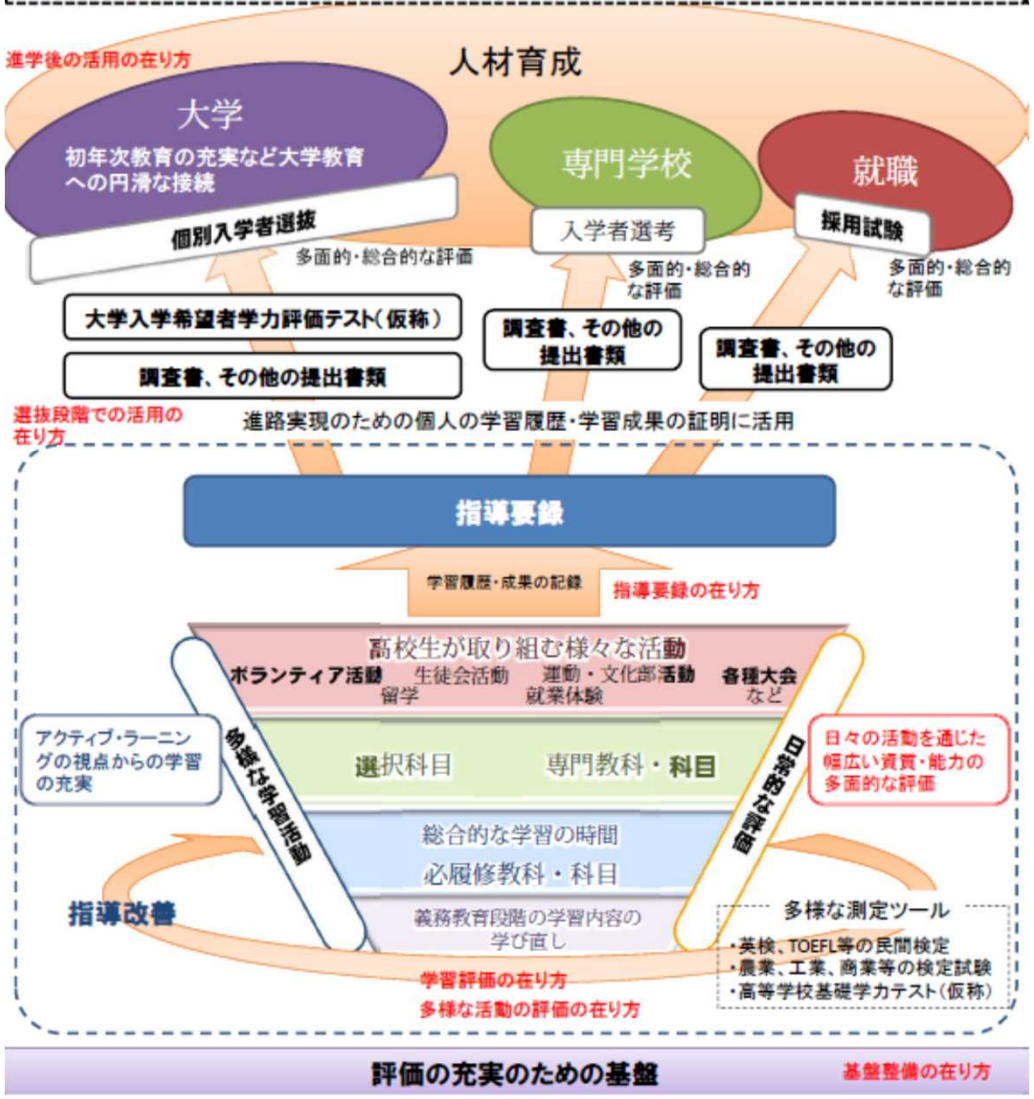
- 三方良しの精神で
  「児童生徒・保護者」「教員」「社会全体」
  それぞれに良さをもたらすものとして

参考

多様な学習活動や学習成果を適切に評価する仕組みの構築（イメージ）

☆日々の活動を通じて育成される幅広い資質・能力について多面的に評価
→学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度等の生徒への指導改善や教材研究等への反映
→大学等への進学や就職等における個人の学習履歴・学習成果の証明に活用
→高等学校における学習と大学における学修等との接続のために活用

高等学校段階の教育・評価の充実から、進学・就職時における多面的・総合的な評価の推進、その後の教育活動・人材育成までを視野に入れた評価の仕組みを構築



文部科学省「高大接続システム会議最終報告書」平成28年3月

ありがとうございました

河野真理子（こうのまりこ）
http://www.carian.jp　kono@carian.jp